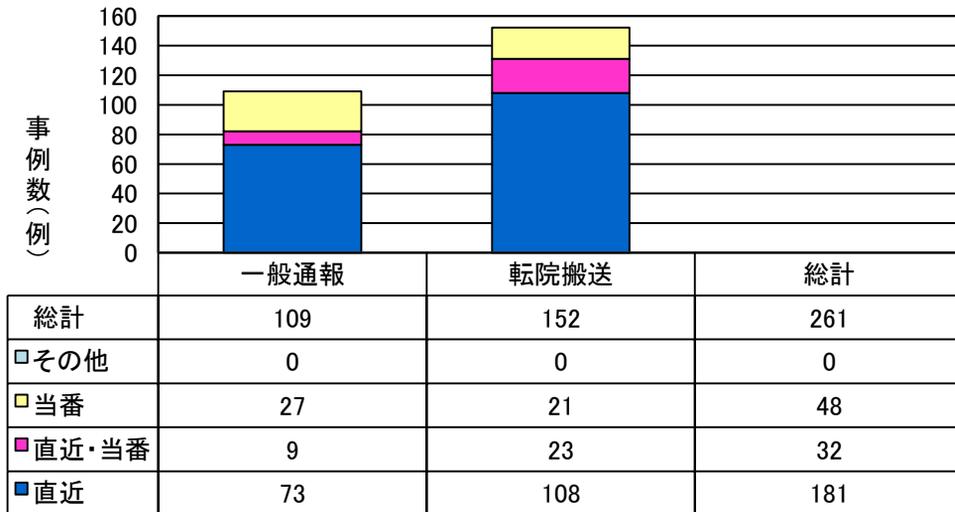


東京都母体救命搬送システムによる搬送事例の状況

令和4年4月1日から令和5年3月31日報告受理分 261件

1 搬送の種類

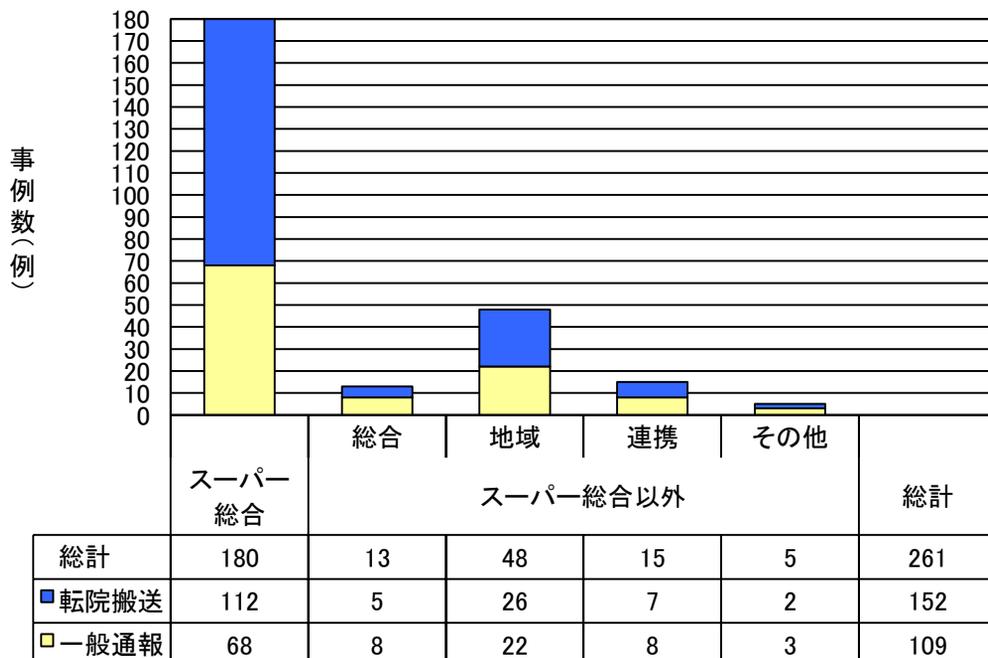
- 一般通報が109件（41.8%）、転院搬送が152件（58.2%）となっている。
 - 一般通報75.2%、転院搬送86.2%が、直近かつ当番病院又は直近病院に搬送されている。
- ※当番病院：第一当番のスーパー総合周産期センター



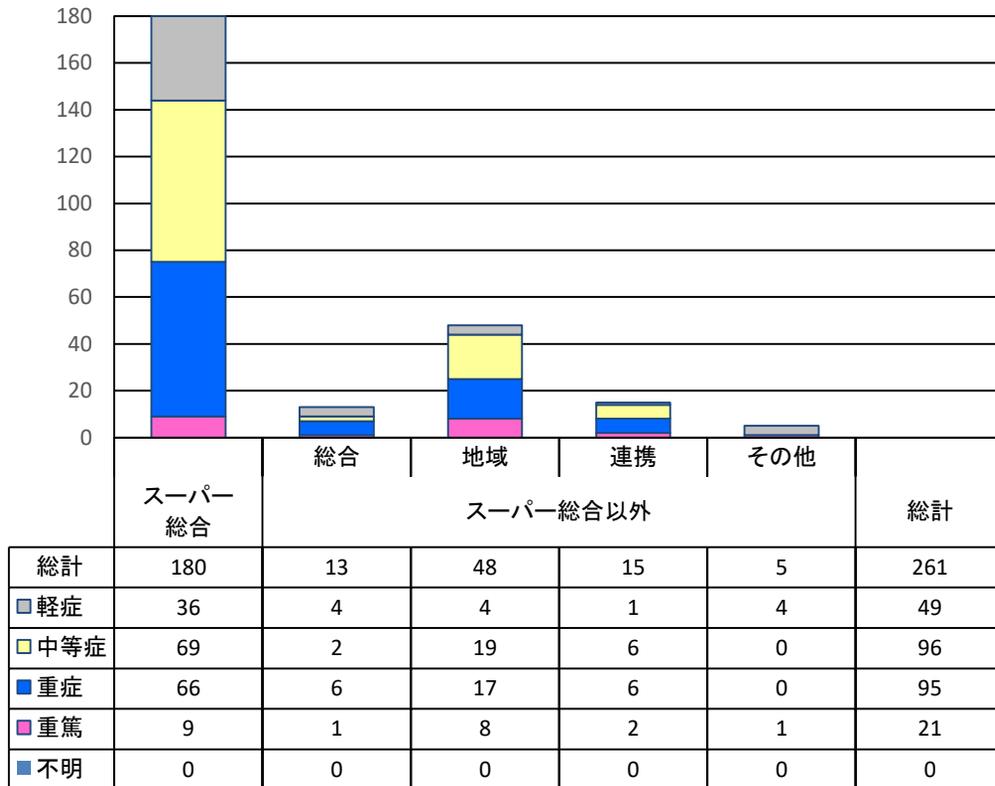
2 病院の種類

- スーパー総合周産期センター6病院には、転院搬送では112件、一般通報では68件、計180件（69.0%）が搬送された。
- スーパー総合周産期センターを含む総合周産期母子医療センターには、193件（73.9%）が搬送された。

（搬送の種類別）

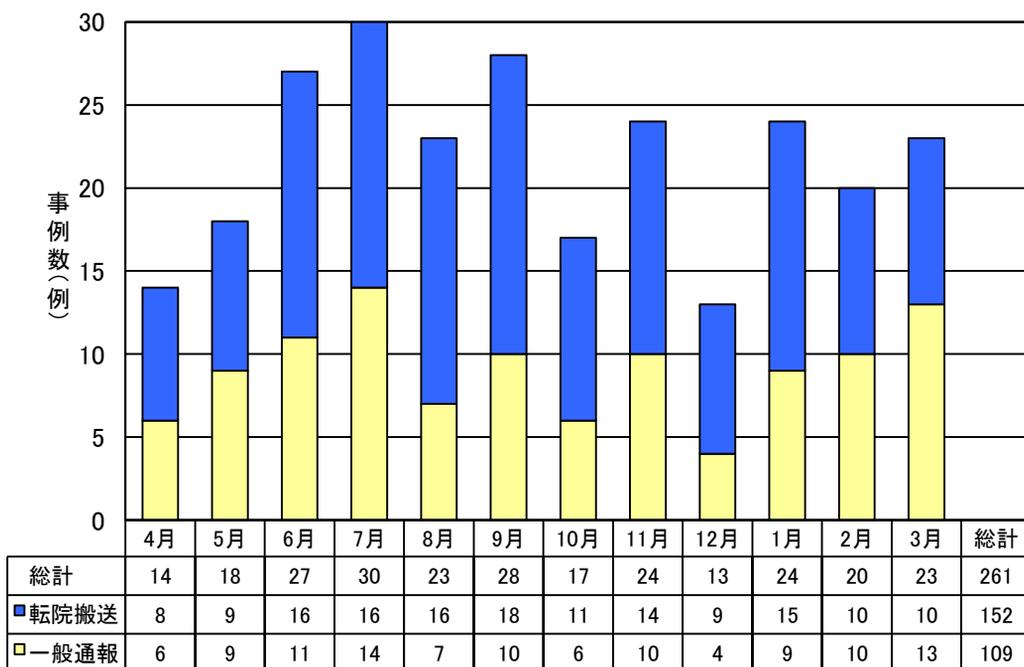


(重症度別)



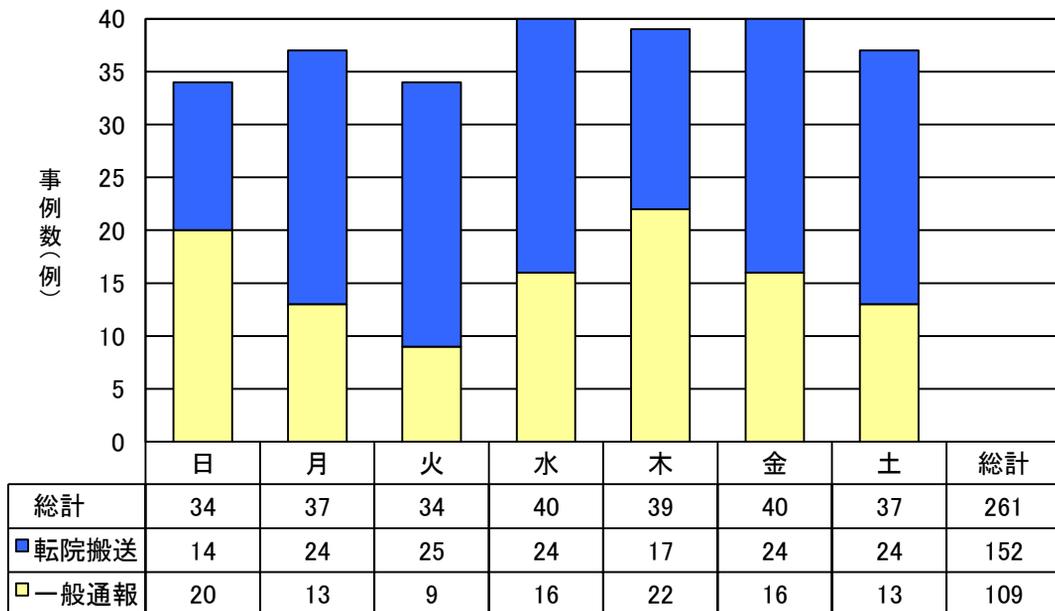
3 月別(搬送の種類)

○ 発生件数は、月平均21.8件で、7月の30件が最も多かった。



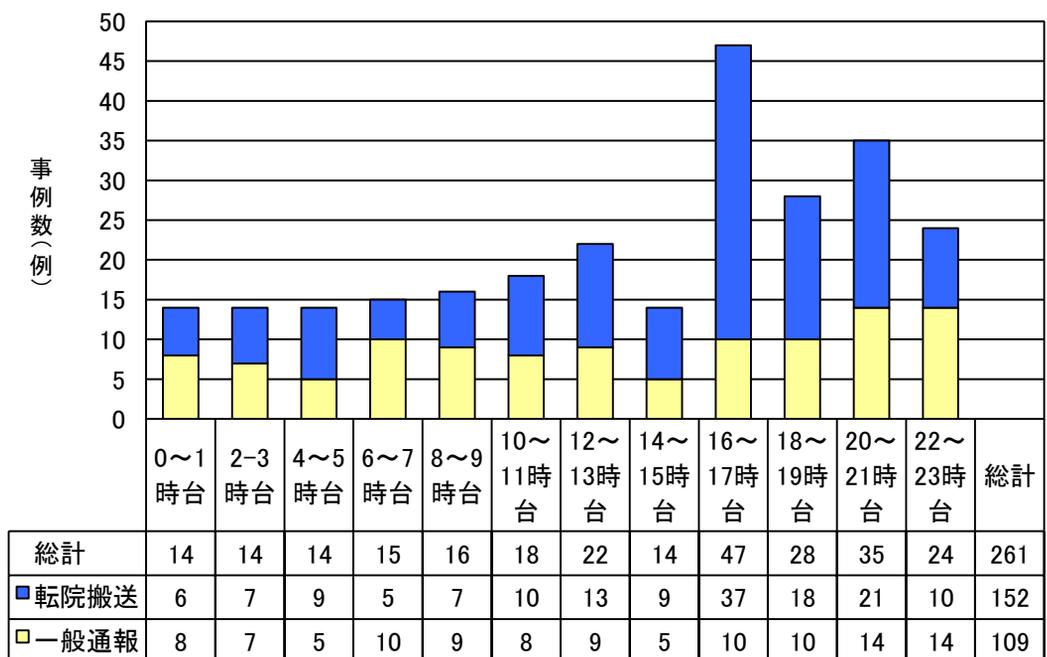
4 曜日別(搬送の種類)

○ 転院搬送が一番多かったのは火曜日、一般通報が一番多かったのは木曜日であった。



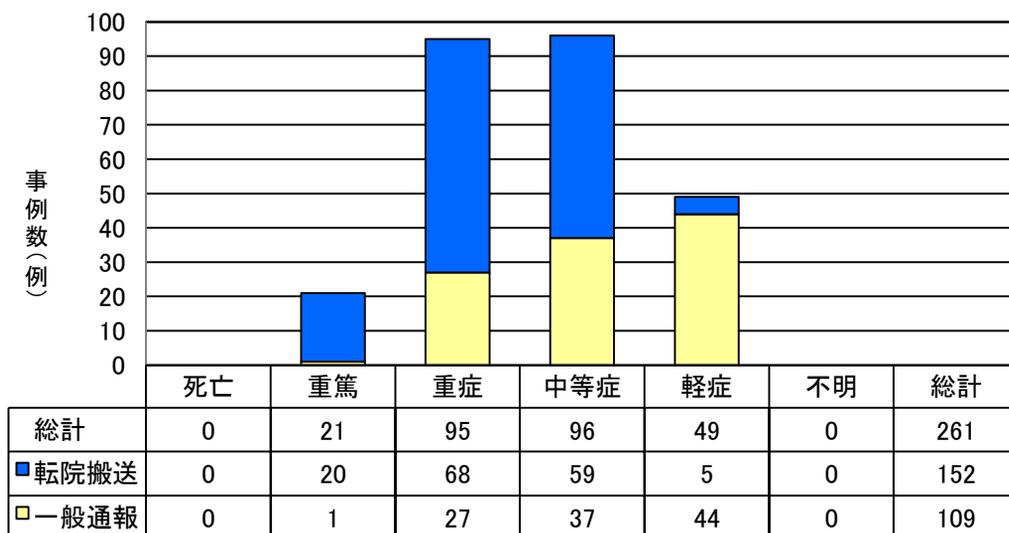
5 時間別

○ 覚知の時間でみると、転院搬送は16～17時台が多く、一般通報は20～21時台・22～23時台が多い。



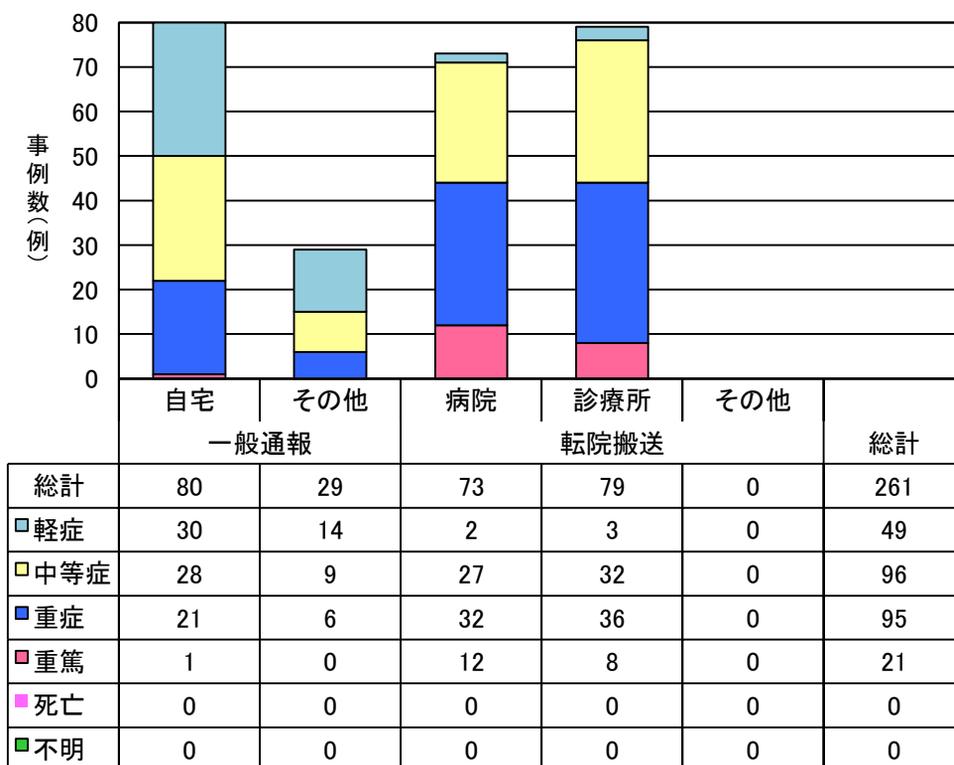
6 母の重症度(病院報告)

- 病院で確定診断が出てからの重症度では、重篤が21例(8.0%)、重症が95例(36.4%)であり、261例中116例(44.4%)がスーパー母体救命に相当すると考えられる。
- 転院搬送では重症以上の割合が高い(57.9%)一方、一般通報では40.4%(44例)が軽症であった。



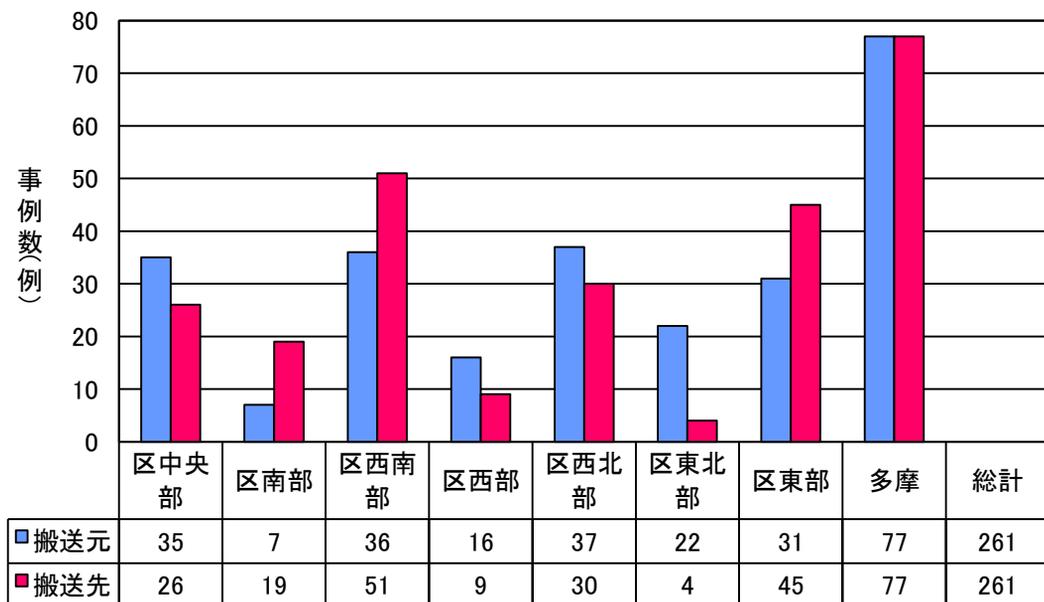
7 搬送元医療機関等

- 一般通報は自宅からの搬送が多く、80件(73.4%)であった。
- 転院搬送は、病院からの搬送が73件(48.0%)であった。



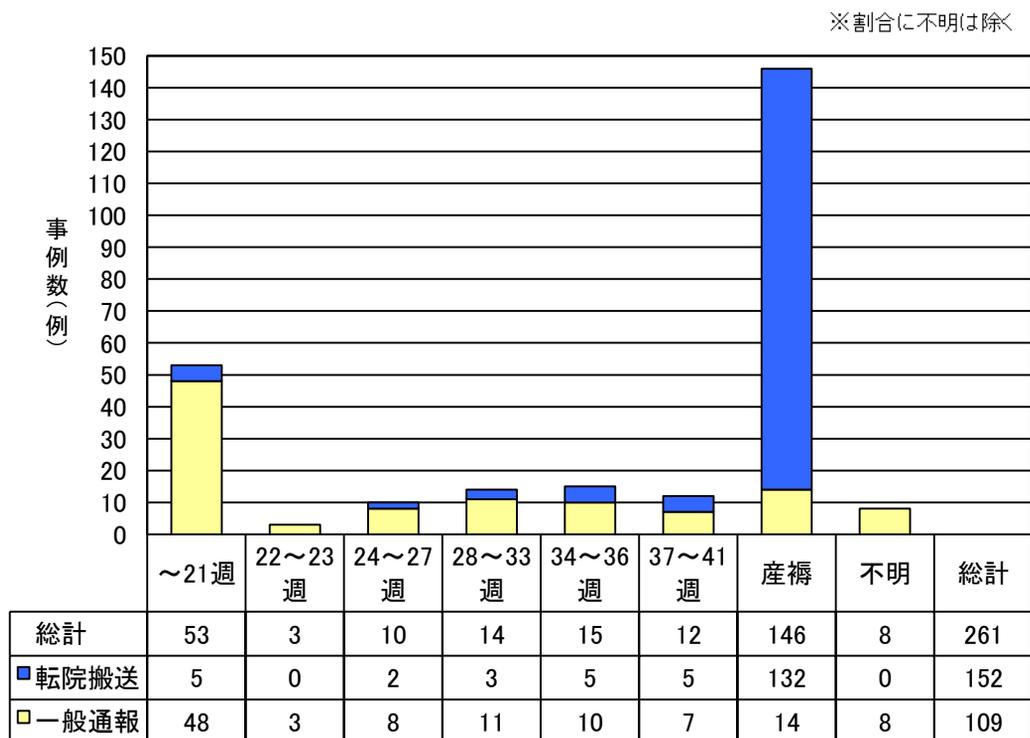
8 ブロック別搬送元及び搬送先

○ 搬送元ブロック、受入となる搬送先ブロックそれぞれ、多摩部が多くなっている。



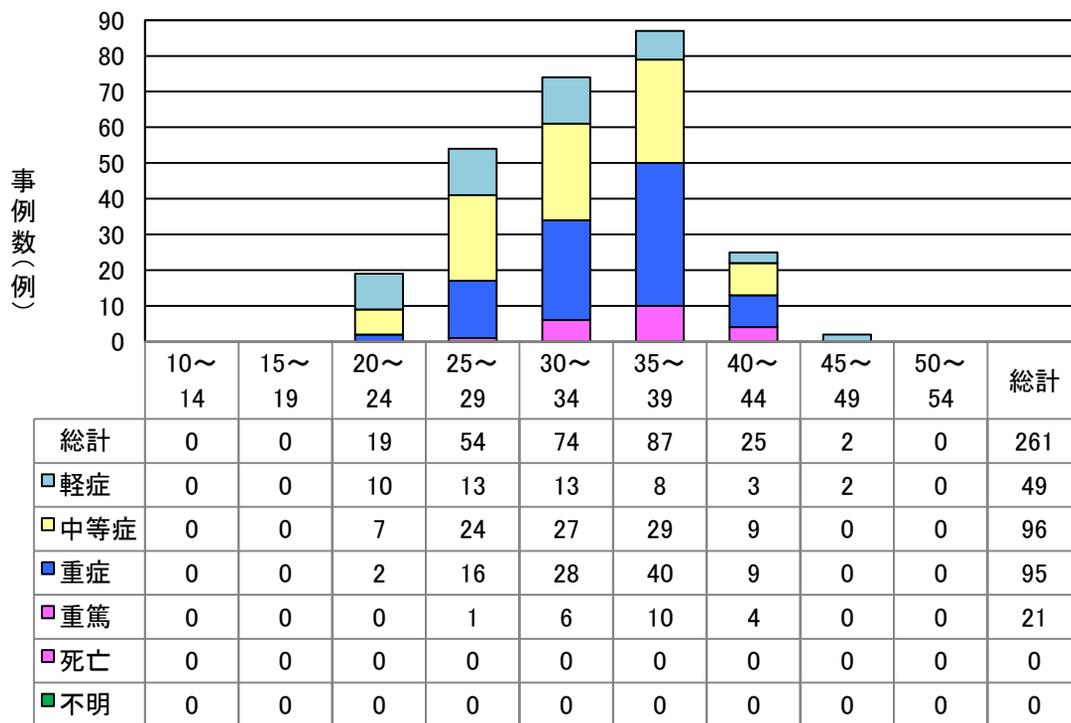
9 週数

- 産褥が146例(57.7%)で最も多かった。なお、産褥のうち125例(85.6%)が出血性ショック・産科DICであった
- 21週以下は流産、異所性妊娠、意識障害等であった。

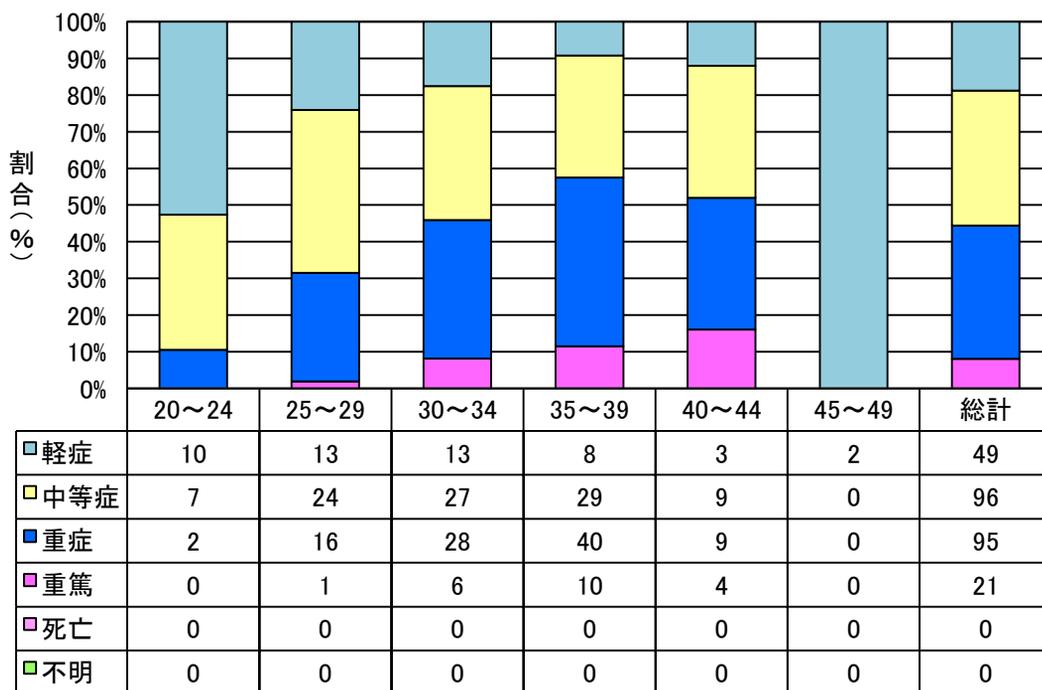


10 母の年齢

○ 年齢別で見ると30代が161例（61.7%）で、発生件数が多くなっている。

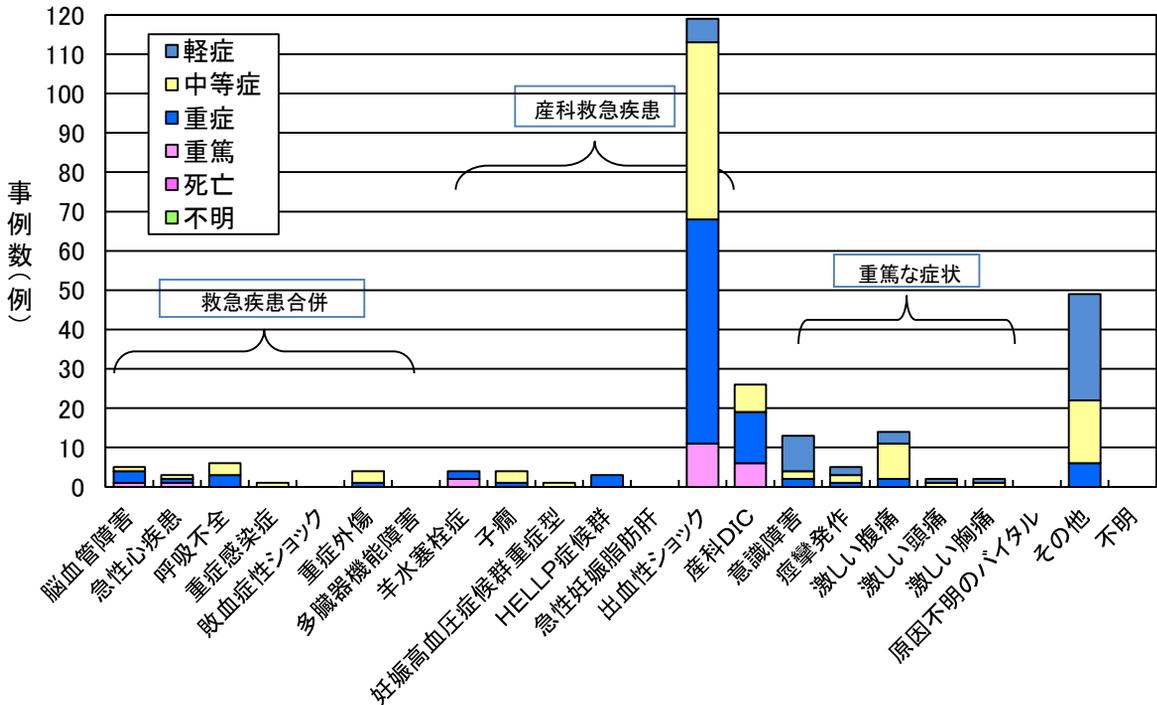


(割合)



13 スーパー母体救命対象症例別疾患（診断後）

- 入院後診断された疾患名では、出血性ショック、産科DIC、激しい腹痛が多い。
- 意識障害やその他では、軽症と診断された事例が多い。

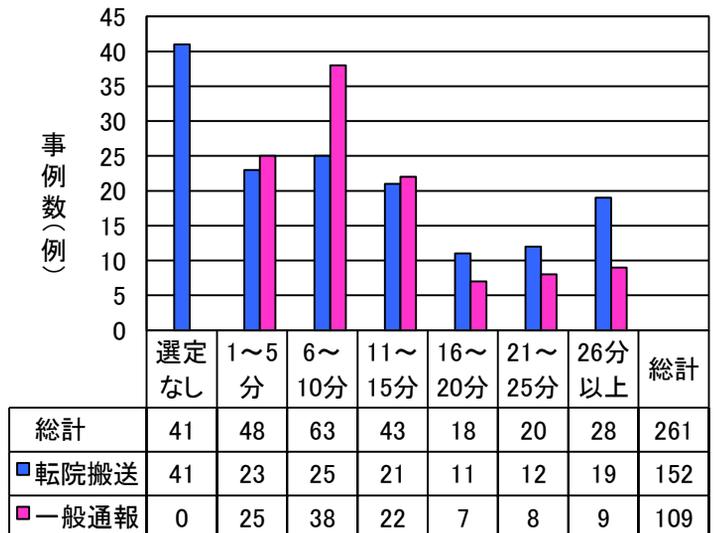
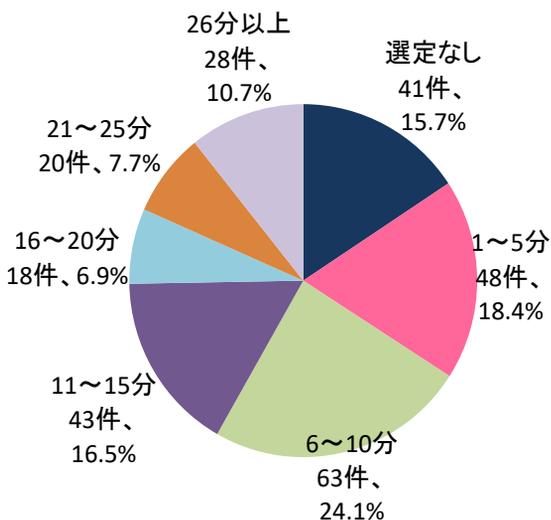


14 病院選定時間（平均13.8分、中央値10.0分、「選定なし」含まず）

- 病院選定時間の多くは15分以内であった。すでに搬送先が決定していた事例を除くと、選定に要した時間は、平均13.8分であった。
- ※選定なし：搬送元で既に搬送先を確保済みの場合

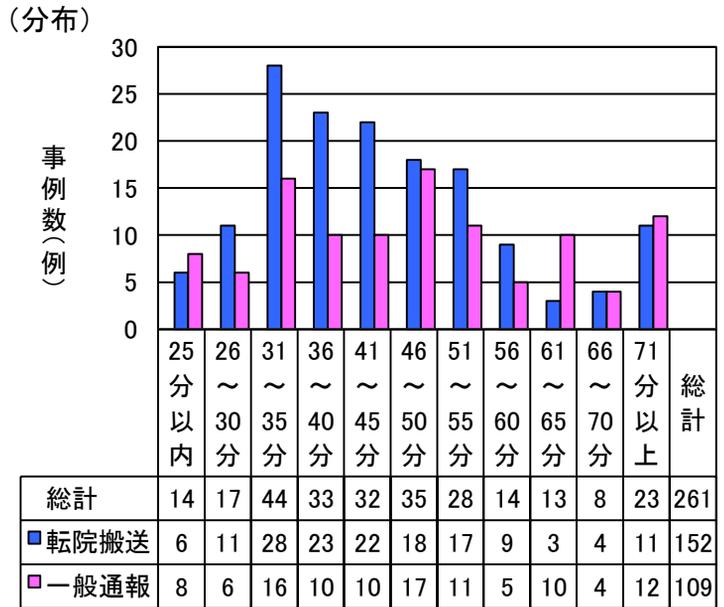
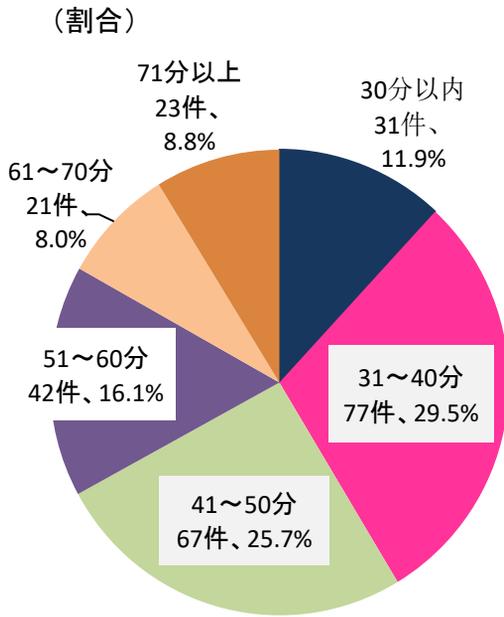
(割合)

(分布)



15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均46.8分、中央値44.0分)

○ 60分を超えるものは44件(16.9%)であった。



16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間

- 転院搬送は、一般通報に比べ、現場に到着してから出発するまでの時間が短い傾向にある。
- 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては病院決定まで平均15.5分となっている。

